徳洲会グループ
TOKUSHUKAI MEDICAL GROUP

発行
一般社団法人徳洲会
〒102-0074 東京都千代田区九段南1-3-1 東京堂千代田ビル14階
TEL：03-3262-3133

制作
一般社団法人徳洲会　広報部
TEL：03-3288-5580　FAX：03-3263-8125
Email：news@tokushukai.jp

ALL LIVING BEINGS ARE CREATED EQUAL

徳洲新聞

TOKUSHUKAI MEDICAL GROUP NEWS

No.1561

湘南厚木病院
循環器内科の診療体制強化
不整脈や虚血性心疾患まで幅広く対応

湘南厚木病院（神奈川県）は地域密着型の急性期病院として診療機能の拡充に努めている。そのひとつが循環器内科の強化だ。以前は非常勤医師を中心とする診療体制だったが、昨年 12 月に着任した小山右文・循環器内科部長を含め常勤医師 2 人体制となり、狭心症や心筋梗塞など虚血性心疾患から心房細動など不整脈治療まで幅広い領域で専門的な治療に注力。厚木市内で唯一の同院心臓血管外科と連携を図り、ハートチームとして今後、より高度な治療にも取り組みながら、いっそう地域医療に貢献していく考えだ。

ハートチームで地域完結を目指す



「地域で完結できるよう高度な医療を含めて提供」と小山部長



循環器内科診療の柱としてカテーテルアブレーションに注力

湘南厚木病院循環器内科に常勤医師として着任したのは小山部長と佐藤大介医師。ふたりとも日本循環器学会専門医や日本心血管治療インターベンション学会認定医などの資格をもち、救急医療をはじめ、さまざまな領域でハイボリュームセンターとして知られる湘南鎌倉総合病院（神奈川県）が前任地。これまで多数の症例を経験し技術を磨いてきた。

小山部長と佐藤医師はそれぞれ得意とする専門領域を分担し、狭心症や心筋梗塞といった虚血性心疾患から、心房細動をはじめとする不整脈疾患まで、幅広い循環器内科疾患に対する診療を展開している。

小山部長は「これまで非常勤の先生方がカテーテル治療を実施してきましたので、設備は整っており、看護師や臨床工学技士、診療放射線技師などスタッフも心臓カテーテルの関連業務に慣れていて、とても協力的でスムーズにスタートを切ることができました。地域の患者さんが市外に出ることなく地元で治療を完結できるよう、高度な医療を含めて提供していきたい」と意気込みを見せる。

小山部長の専門は不整脈治療で、同院の診療の柱のひとつ。とくに不整脈の一種である心房細動の治療に注力し、カテーテルアブレーション（心筋焼灼術）を積極的に施行している。

心房細動は動悸や息苦しさ、胸の圧迫感、めまいなどの症状が現れることが多く、無症状（自覚症状がない）の場合も少なくない。放置すると心原性の脳梗塞などにつながる恐れがある。

薬物療法が効かない心房細動に対する根治療法がカテーテルアブレーションで、不整脈の発生源となっている心臓内の部位を、専用のカテーテルで焼灼し根治を目指すという治療だ。

循環器診療のもうひとつの柱が、狭心症や心筋梗塞などに対する心臓カテーテル治療（PCI＝経皮的冠動脈形成術）。佐藤医師が手がけている。狭心症は心臓に酸素や栄養を送る冠動脈が動脈硬化などで細くなる疾患で、階段を上がった時や早歩きをした時などに「胸が締め付けられる」などの症状が現れる。心筋梗塞は、冠動脈が突然詰まり、心臓の筋肉がダメージを受けてしまう重い疾患。

「循環器疾患は生命にかかわることが多く、早期発見・治療が重要です。気になる症状があれば心房細動や狭心症が隠れていることがありますので、お気軽にご相談ください」と小山部長は呼びかけている。

続けて小山部長は「心房細動に対し当院は現在、高周波アブレーションを施行していますが、2024 年 9 月に保険適用となった新しい治療法であるパルスフィールドアブレーション（PFA）の導入を目指しています。PFA は特殊な電気パルスで心臓の標的部位（心筋細胞）を選択的に治療する新しい技術で、従来のような点ではなく面で焼灼していくイメージですので治療時間が短く、また熱を発生させないため心臓の周辺組織に影響を及ぼす可能性が低いことから、より安全性が高いなどのメリットがあります」と説明する。

救急受け入れ体制も拡充

植え込み型除細動器（ICD）やリードレスペースメーカー、ロータブレーターといった高度な治療の導入も視野に入れている。ICD は皮下に植え込み、つねに心臓の動きをモニターし、致死性の異常な脈を検知した場合には電気刺激を与えて正常な心拍に戻す医療機器。

リードレスペースメーカーは、カプセル型の小さなペースメーカーをカテーテルで心臓の右心室へ送り込み、心壁にフックなどで固定して電気刺激を与え、心臓の規則正しい収縮をサポート。ロータブレーターは石灰化により狭く硬くなった冠動脈に対して行うカテーテル治療のひとつで、専用カテーテルの先端にあるダイヤモンドコーティングされた金属部分が高速回転し、血管内の石灰部分を切削する。

これらは、循環器内科の専門医に加え、常勤の心臓血管外科医師の在籍が施設基準に含まれていたり、同科医師によるバックアップ体制の確保が望ましいとされていたりする治療法だ。

同院は榊健司朗副院長が率いる心臓血管外科と循環器内科がハートチームとして一体となって治療を推進。「たとえば狭心症であれば、カテーテル治療で行うのが良いか、それともバイパス手術を行うべきか、両科の医師が合同カンファレンス（症例検討会）を開き、より良い治療方針を決定するために検討を行っています」（小山部長）。また外科手術前の心機能の評価や術後に不整脈が発生した場合には循環器内科医が対応するなど、連携する場面は少なくない。

循環器内科が常勤体制となり、救急搬送の受け入れ体制強化にもつながった。同院は厚木市の二次救急輪番病院の第一当番病院として、1 週間のうち月曜と水曜の 2 日間の夜間救急を担当。循環器内科では当番日に当直体制を敷き、他の平日日勤帯にもホットラインを通じて救急の受け入れに尽力している。

心房細動アブレーション治療 名古屋病院が2000例達成



2,000例目のアブレーション治療後に記念撮影

名古屋徳洲会総合病院は9月2日、心房細動（AF）に対するアブレーション治療が2,000例を達成した。同治療は、カテーテルを用いて心臓の異常部位を焼灼または冷凍凝固し、不整脈を抑える治療。同院では、昨年12月5日に全アブレーション治療2,500例を達成していたが、この時点でAFのみの実績は1,802例だった。

同治療は、加藤千雄院長が入職した2014年1月にスタート。当時は医師1人体制で、限られたスタッフとともに治療を積み重ねていたが、現在は医師や看護師、臨床工学技士、診療放射線技師など20人を超える多職種チームへと拡大した。

加藤院長は「2,000例という節目を迎えられたのは、スタッフの協力はもとより、治療を受けてくださった患者さん、そして大切な患者さんをご紹介してくださった地域の先生方からの信頼の積み重ねによるものと考えています。あらためて心より感謝申し上げます」と謝意を表す。

同院は、安全で質の高い医療を提供し続けるとともに、地域医療機関との密な連携を一層強化していく方針。加藤院長は「これからも『ここに紹介して良かった』、『ここで治療を受けて良かった』と思っていただける不整脈診療を目指し、チーム一丸となって頑張ります」と意気軒高だ。

深井・湘南鎌倉病院主任部長
世界ロボット外科学会で優秀演題賞「ダヴィンチ5」の手術データを解析



優秀演題賞の表彰状を手に、座長や他の演者と写る深井・主任部長（左から2人目）

湘南鎌倉総合病院（神奈川県）の深井隆太・呼吸器外科主任部長は、米フロリダ州で開催された世界ロボット外科学会（SRS＝Society of Robotic Surgery）学術大会で、「ダヴィンチ5から得られるデータの解析：指導医と修練医における“Time with Force”の違い」をテーマに口演を行い、胸部外科部門の優秀演題賞を受賞した。

同院が2025年7月に導入したダヴィンチ5は、手術部位に加わった力をニュートン（N）という単位で計測を可能とするForce Feedback（FFB）機能が備わる。0.6～6.5Nの範囲で検出可能。この範囲内で鉗子を使用した時間をTime with force（TWF）と呼ぶ。内視鏡カメラを動かすクラッチの使用回数（ECC）、ハンドコントローラー（操作レバー）のクラッチの使用回数（HCCC）、電気メスなどのエネルギーデバイスに通電させるペダルを踏んだ回数（EPC）のデータも取得できる。

口演では、指導医と修練医が施行した解剖学的肺切除28例（指導医群13例、修練医群15例。2群間で患者背景などに有意差なし）のデータを比較し、結果を発表した。

「ECCやHCCC、EPC、手術（コンソール）時間に有意差はなかったものの、TWFは指導医群で短く、有意差を認め、その操作に何らかの違いがある可能性が示唆されました。また、組織把持用の鉗子（フェネストレイテッド鉗子）のTWFはコンソール時間と強い相関があることがわかりました」などとまとめた。

発表後、深井・主任部長は「ダヴィンチ5では、個々の医師が経験をもとに感覚で行っていた手術操作にかかわるデータを取得できるようになったため、数値化して客観的に評価することに関心がありました。こうした研究が進展すれば、将来的には修練医の教育効率の向上や、より安全な手術手技の実施などにつながっていくのではないかと考えています」と展望している。